

# 来年度予算編成についての 考え方を問う



質問者  
大館 秀孝 議員



(株)小田原エンジニアリングの新工場（H26年3月完成）

歳月の過ぎるのは早いもので、もう来年度予算編成について取り組みをする時期になりました。10月に職員の組織改革もされ、本格的に人口増加

策・商工業・観光・町全体の活性化等について、実践的取り組みをされる考えと思います。

歳出面では財源の裏付けが必要であり、歳入の確保が最大の課題です。そこで、町長に伺います。財源の確保、歳出の配分等についての基本的な考え方は。

は、町民一人ひとりが希望を持てるよう、定住化・人口減少対策につながる街づくりに取り組み、子育て支援や教育環境の充実、防災対策強化など「松田町第5次総合計画アクションプログラム」の目標達成に向け着実な推進を図ること。

そのためには、各種事業の費用対効果を検討し、事業の選択と財源の重点配分を適切かつ確実に、予算編成に反映していくこと。また、自主財源の確保として、新たな特産品の開発や地域産業の育成などに向けた取り組みを強化し、未来に実を結ぶ投資を積極的に推進すること。

さらに、新たな成長分野の掘り起しを念頭に、地域経済の自立を目指した取り組みを展開し、将来的に自主財源の増収につながる事業を行うとともに、収納対策を強化し税収の確保に努めていく。

A

**事業の選択と財源の重点配分により予算に反映させる**  
回答（町長）

予算編成の大前提として、職員に指示した方針

## 議員行政視察報告

### 合併をしない町 福島県矢祭町

平成26年9月25日(木)～26日(金)  
参加議員：寺嶋正・石内浩・小澤啓司

#### 矢祭町の概要

矢祭町は福島県の南端に位置し、面積11.8km<sup>2</sup>（松田町の約3倍）で人口は6,260人。高齢化と人口減少に悩む町である。

#### 自立できる町づくり

事務事業の見直しと人件費削減を大胆に進め、その結果生じた財源を子育て世代対策や、行政サービスの向上に投資している。職員も今までの公務員感覚では、この町が続かないことに気づき、意識改革が進行した。

明治・昭和の大合併の都度、近隣の村が二分されたり、統廃合を繰り返した悲劇を教訓として、国の政策に左右されることなく、将来にわたって郷土を守り住民の安心・安全を確かなものにするために、自治体はどうあるべきか。

国が推進した「平成の大合併」は、町民の福祉向上には繋がらないとして、平成13年に「市町村合併をしない矢祭町宣言」をした。



矢祭町応接室にて（H26年9月25日）



住民福祉の向上を目指すには、どう行動するべきか。行政がやるべき仕事、住民がやるべきこと。自治体内の分権を図っていくことが何よりも重要であり、そのためには、財政や行政サービスの仕組み

上段は、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。